

職業 保育士

所属 三芳町立第2保育所

名前 木庭直己

★この仕事を選んだ理由

一言、子どもが好きだから！ 工業高校時代の先生に勧められた本の影響で、自分に一番あった職業はと考えるこの道を選んだ。

★保育士になって良かったこと、苦労していること

日々新しい発見ができ、子どもたちの成長を見られることが一番うれしい。保育士にな



って10年目ですが、最初は男性用のトイレや更衣室もなく、設備面で苦労した。

★入庁当時と現在の違い

男性保育士が徐々に増えた。(三芳町では各保育所に1名ずつ配置)研修会などに行くといくつ割は男性がいる。少しずつ認められてきた。年配の方からは、まだまだ女性の仕事と思われており、ジェンダーを感じることもある。家庭にお父さん、お母さんがいるように、女性保育士はお母さん、男性保育士はお父さんの存在だと思っている。

★子育て中の方へのメッセージ

子どもにもっと目を向けてあげてください。子育てはお母さんの役割と考えずにお父さんたちにも積極的に関わってほしい。参観日にはお母共に関心をもって参加してください。

★インタビューの感想

子どもが好きだからこそ、子どもたちからも好かれる先生なのでしょう。子ども時代に父親からたっぷり遊んでもらった思い出が、今の木庭さんへの、いい影響となったように感じました。所長さんのお話で、「木庭さんの姿を見て、文集に将来なりたい職業を保育士と書く男の子がでてきましたよ。」とも。子どもたちにも素敵な影響がでているようです。



(インタビュー：岩城桂子)

職業 ロボットティーチング(車体整備製造)

所属 ホンダエンジニアリング(株)

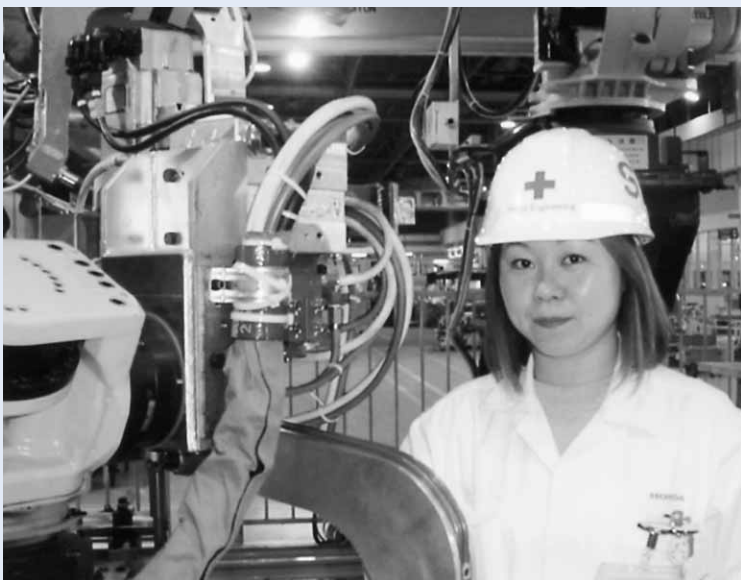
名前 野村幸江

★この仕事を選んだ理由

一年前まで事務職でしたが、「一人ひとりの得意分野があるはず」と上司からの勧めで、車を作るロボットを操作する仕事に変わった。

★仕事に就いて感じたこと

他の人たちは工業系の出身者ばかりだったので、機具や部品などの名称を覚えるところから始めなければいけない大変さがあった。上司から半年間みっちりご指導いただき、とにかくチームの足をひっぱらないように気を配った。力仕事では男性との差があり限界を感じたこともあったが、成功も失敗も自分にあるので、仕事のやりがいがある。上司や職場の人たちが暖かく励ましてくれるので、恵まれていると思う。



★まわりの人の変化

オールホンダとして初の女性ティーチングだったので、国内外から注目されている。「女性にもできる仕事である」と、この注目をチャンスと捉え、次の世代につなげていきたい。また、自分の影響で、他の部署でも女性社員が海外出張に行くなどの波及もある。女性であっても、子どもがいても、職場や家族の応援と自分のやる気で、今の仕事ができていると思う。

★インタビューの感想

仕事への挑戦、前向きさが力強く伝わってきました。職場の上司やまわりの人、家族への感謝を常に感じながら働く野村さんはとても素敵な人でした。

(インタビュー：浜砂豊子、神川恭子)



職業 会社経営

所属 上板塑性(株)

名前 武山睦子

★この仕事を選んだ理由

一人娘だったので、好きな職業を選ぶ自由もなかった。親の敷いたレールに乗り家業を継いだから。

★仕事での苦労や良かったこと

経営者として、男性以上にやらなければなら

らず、大変だと感じることもあるが、仕事は楽しくやりがいもある。会社が成長し売り上げが伸び、利益ができればうれしいし、社員に気持ちよく働いてもらえるように心掛けている。子ども(双子の男の子)が忙しい毎日の中でも、明るく素直にまっすぐ育ってくれたことが何より良かった。仕事と子育ての両立面では、まわりの協力があつたことと、立場上、自由が利く面があつたから。しかし海外出張や、即、取引先へという行動面では難しい時期もあつたが、まわりに支えてもらった。

★仕事を始めた頃と現在の違い

一般社員のころは、自分なりにやってみていたこともいろいろあつたが、今は経営者の立場として、社員やその家族のことを第一に考えている。社屋をリフォームして、明るく働きやすい環境づくりをめざしている。

★インタビューの感想

会社や従業員の雰囲気がとてもよい印象があつたので、実際にインタビューでお会いしただと感じました。いきいきと活躍している武山さんはお客様や社員を大事にしている素敵な経営者でした。



(インタビュー：鷹野幸子、向吉孝子)

※ジェンダー：人が持って生まれた個性ではなく、社会的・文化的にあとからすりこまれた「男らしさ」「女らしさ」のこと。